



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：国内鉱物資源開発

(2月25日付アラブニュース紙)

石油の輸出のみに依存しない(産業の)多様化は、サウジ政府の長年の目標である。これまでのところ、50以上の金や多数のベースメタル、貴重な産業金属の鉱床が存在することが判明している。

1. 1997年、鉱物開発を進め、商業ベースに乗せるため、サウジ鉱物公社(マーデン)が設立された。マーデンは、国際資源企業のRio Tinto Alcanと連携してアルミを生産しているが、建設、航空、運輸、包装の幅広い分野に活用されている。また同じく、マーデンがサウジ基礎産業公社(SABIC)と生産しているリン酸塩は、肥料の生産にも使用されるが、その他食塩、飲料、制約、化粧品等にも活用されている。
2. マーデンのサウジ経済に対する役割は、石油のアラムコ、石化のSABICに続く第3の柱になるだろう。マーデンは、サウジ及び国際企業と連携を強めており、リン酸肥料工業団地を開発するために、韓国hanwha Engineering and Construction及び中国Guizhou Hongfu Industry and Commerce Development Co.と合意した。
3. また Ras Al-Zour で工業団地を整備しているコンストラクターには韓国 Samsung Engineering 及びサウジのABB Contractringが含まれる。マーデンの力強い同盟と連携は、他の国々から技術と知識の移転を進める。

<参考>

近年、サウジアラビアは鉱物資源開発を積極的に進めている。世界的なレアメタルの争奪戦が始まっている中で、韓国や中国は積極的にサウジアラビアへの進出を果たしている。これまで当該分野における日本企業の進出はほとんど皆無であり、さらなる日本企業の進出が期待されている。